

県小学生プログラミング 7作品、最終審査へ



1次審査で入賞作品を選ぶ審査員ら＝水戸市内

小学生がプログラミングの技術や豊かな発想力、表現力を競う「ユードムチャレンジカップ2025年度全国選抜小学生プログラミング大会県大会」（茨城新聞社、全国新聞社事業協議会主催、ユードム、茨城大特別協賛）の入賞作品が3日、発表された。1次審査により、特別賞7点と優秀賞13点の計20作品が選出された。特別賞の受賞者は全国大会出場を懸けて12月の最終審査に臨む。そのほか、アイデア賞と審査員特別賞が選ばれた。

同大会は今年で6回目。ボタン一つで楽器を演奏するプログラミングなど、県内の小学生が「みんなの미래」をテーマに作品を作った。本年度からアイデアのみでの応募も可能となり、昨年度を大きく上回る137件のエントリーがあった。

1次審査は先月27日に茨城大付属中のサイバーステーションで実施。茨城大教育学部の教員3人が審査員を務め、応募書類の内容や発想力のほか、プログラミング技術も踏まえて入賞作品を選んだ。審査員の毛利靖教授は「県内全域から応募があり小学校でのプログラミング教育が進んでいると感じた。実現したいことのためにアイデアを膨らませている様子が作品から伝わり、子どもたちの想像力は素晴らしいものだと思う」と感想を話した。

最終審査は12月20日、水戸市泉町の市民会館ユードムホールで行う。特別賞受賞者が自分の作品をプレゼンテーションし、最も優れた作品に県知事賞が贈られる。同賞の受賞者は、来年3月に都内で開かれる全国

大会の出場権を得る。また、最終審査の会場では優秀賞受賞者による展示発表ブースを設ける。

（水島洋貴）

1次審査の各賞は次の通り。（順不同、敬称略）

◇特別賞 須藤海舟（つくばみらい市立富士見ヶ丘小）▽藤子勢（日立市立油縄子小）▽野口愛央（弓野あこ）▽市立手代木南小
▽堀内琴々音 田口英依（土浦市立石根小）▽井川裕麻、岡田拓登（行方市立玉造小）▽高田蒼也（日立市立助川小、市川心月（同会瀬小）▽山田愛純、山田翼輝（水戸市立吉田小、穴山桜子（茨城大付属小）

学園の森義務教育学校）▽生田目翼（常陸太田市立太田小）▽小林幹時（常陸大宮市立大宮小）▽佐々木望（水戸市立梅ヶ丘小）▽菊池陽（大子町立立上小）▽西野宮沙織（日立市立水木小）▽神野愛巴（土浦市立石根小）▽栗田葵彩（常総市立三妻小）▽村田一哉（つくば市立学園の森義務教育学校）▽鈴木貴大（常陸太田市立機初小）▽高丸拓海（常陸大宮市立村田小）▽山内文翔（茨城大付属小）▽矢口紗希、湯本葉渚（結城市立山川小）

◇アイデア賞 黒澤駿介（笠間市立北川根小）▽目下田勇樹（水戸市立常磐小）▽勝間田静（日立市立百高小）▽小松俊翔、白土輝波（笠間市立大原小）▽石井美咲、工藤華希（同）